

キハダ 大西洋

Yellowfin Tuna, *Thunnus albacares*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 2.0 m・200 kg
- 寿命：7～10 歳（18 歳の可能性もある）
- 成熟開始年齢：3 歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：分布域に等しい
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：マグロ・カジキ類、サメ類、海産哺乳類

利用・用途

刺身、すし、缶詰等

漁業の特徴

大西洋におけるキハダ漁業は 1950 年頃に始まり、1955 年頃から竿釣り及びはえ縄漁業が開始された。当初ははえ縄の漁獲が多くを占めたが、最近年はまき網が主となっている。主漁場は熱帯域であり、特に東部大西洋からの漁獲が多い。近年はまき網の人工浮き魚礁 (FAD) 操業の漁場が拡大し、南は西アフリカ沿岸の南緯 15 度付近、北はモーリタニア沖合の北緯 15 度付近まで広がっている。はえ縄は大西洋のほぼ全域で操業が行われている。竿釣り漁業は東部、西部大西洋の沿岸部で行われている。

漁獲の動向

漁獲量は、当初から 1970 年代までは概ね増加傾向にあり、1980 年以降は 10 万～19 万トンの間で変動し、最近 5 年間で全漁獲量のうちおおよそ 68%がまき網、11%がはえ縄、7%が竿釣りにより漁獲されている。1990 年に漁獲量のピーク (19.3 万トン) が記録された後、減少傾向に転じ、2019 年には 13.2 万トン (予備集計) となった。

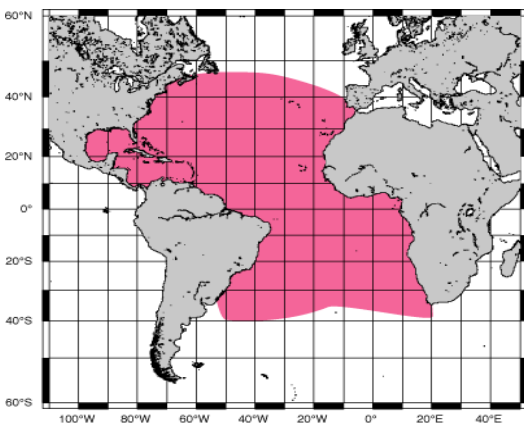
資源状態

最新の資源評価は ICCAT により 2019 年に行われた。資源評価モデルは、2 種類のプロダクションモデル (Surplus production model: MPB、Bayesian surplus production model: JABBA) 及び統合モデル (Stock Synthesis: SS) が用いられた。最大持続生産量 (MSY) は 12.1 (9.0～26.7) 万トンと推定され、2018 年の漁獲量より小さい。2018 年の資源量は MSY レベルより大きく ($B_{2018}/B_{MSY} = 1.17$ (0.75～1.62))、2018 年の漁獲率はほぼ MSY レベルである ($F_{2018}/F_{MSY} = 0.96$ (0.56～1.50)) と推定された。したがって、2018 年において、本資源は乱獲状態ではなく、本資源への漁獲率は適正なレベルであったといえる。将来予測 (3 モデル統合) では、将来的な漁獲量 13 万トン (現状の漁獲量) で 2033 年 (15 年後) に神戸プロットにおけるグリーンゾーン確率 38%、11 万トン (総漁獲可能量 (TAC)) で 2033 年にグリーンゾーン確率 86%と推定された。

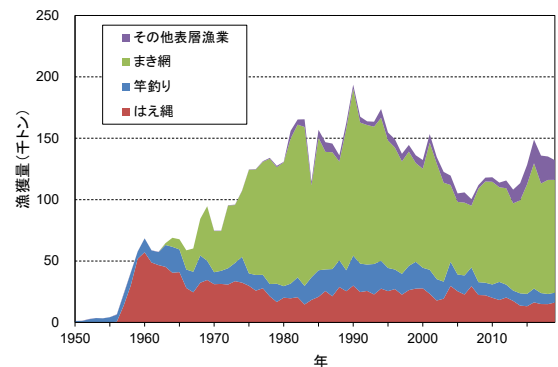
管理方策

2019 年 11 月の ICCAT 年次会合で TAC を引き続き 11 万トンとすることが合意された。また、従来の FAD 操業の制限 (2019 年 1 月 1 日～2 月 28 日の 2 か月間、南緯 4 度、北緯 5 度、西経 20 度、アフリカ大陸で囲まれた海域で操業禁止) は強化され、2020 年には 1～2 月の 2 か月間、さらに 2021 年には 1～3 月の 3 か月間において、大西洋全体における FAD 操業の禁止が決定された。

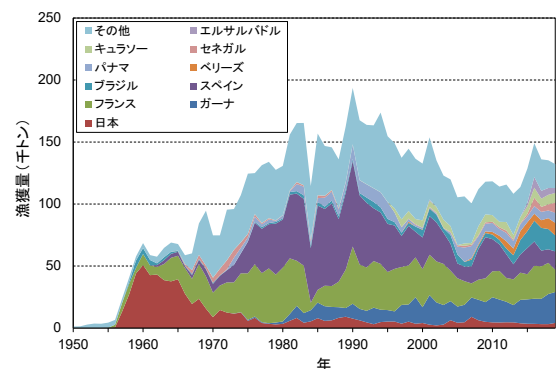
キハダ（大西洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	低位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近5年間)	12.8万~14.9万トン 最近(2019)年:13.2万トン 平均:13.6万トン(2015~2019年)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	0.3万~0.4万トン 最近(2019)年:0.4万トン 平均:0.3万トン(2015~2019年)
管理目標	MSY:12.1(9.0~26.7)万トン
資源評価の方法	プロダクションモデル(MPB、JABBA) 統合モデル(SS)
資源の状態	$B_{2018}/B_{MSY}:1.17(0.75\sim1.62)$ $F_{2018}/F_{MSY}:0.96(0.56\sim1.50)$
管理措置	TAC(11万トン) 大西洋全体におけるFADを利用したまき網操業の禁止(2020年は1~2月の2か月間、2021年は1~3月の3か月間を予定)
最新の資源評価年	2019年
次回の資源評価年	2023年(暫定的なスケジュール)



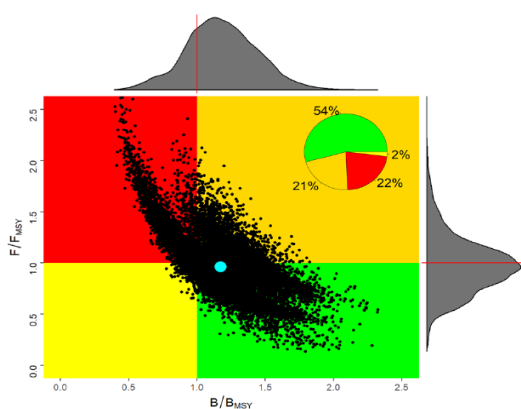
大西洋におけるキハダの分布域



大西洋におけるキハダの漁別漁獲量(1950~2019年)

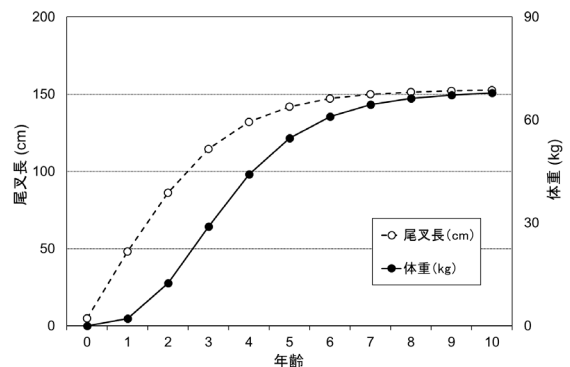


大西洋におけるキハダの国別漁獲量(1950~2019年)



大西洋キハダの資源解析結果

青丸は2018年の状態を示す。黒丸は4,500回(9シナリオ×500回)のモデル設計やデータの不確実性を考慮した試行の分布を示す。縦軸は漁獲率、横軸は資源量で現状/持続可能な値の比で示す。神戸プロットの上側と右側に、それぞれ横軸、縦軸についての頻度分布図を示す。



大西洋におけるキハダの成長